



夏祭りで打ち上げ花火(スターマイン)560発を中庭で打ち上げ



米国GE社製の最新型3.0テスラMRI

米アーカンソーホスピタルと懇親交流を深める
しかし、最先端の機材を導入することも大事だが、病院経営や人材育成も重要。
そこで松弘会は昨年循環器分野に強く患者満足度で全米トップクラスの「アーカンソーハートホスピタル(AHHC)」をモデルとし、病院長、病室、フロア、医師、看護師、と提携し、その病棟に、本法人を、通じて、松弘会に、対して、

若くて優秀な医師の採用支援や、効率的臨床ワークフローの構築、患者主体の効率的な診療・経営ノウハウを得ている。
すべての認知症が良くなるわけではない!
「すべての認知症が治らない病気ではない」と。これが30余年、医師として認知症に向き合ってきた済陽氏の理念だ。患者の症状に合わせた治療法が、患者の生活に合わせた治療法に変わらなければならない。病棟の工費がなされる。病棟の建設費や設備費などは合計22億円を充て、院内にシャンドリアや高級家具などを配し、ホテル並みの心地よさを実現させ、患者のストレスを軽減。

「医療の基本は、治す」ということ。そのためには、最先端の診断設備が必要なのは、原点をこう語る。済陽氏は医療の「三愛病院(126床)」を、埼玉県さいたま市桜区で営んでいる松弘会が立ち上げた「トワーム小江戸病院」(2008年6月10日開院)は、2008年6月10日に開院し、外来・医療重傷を認知的なケアなどの医療を行う。通常、認知症患者はグループホームなどの介護施設で対応することが多い。一方で、身体疾患を併発した医療必要度の高い認知症患者は、介護施設では対応が難しい。また、精神科病院は、身体疾患の診療体制が総合病院に比べて整っていないところもある。

病棟のロビーも天井を吹き抜けにして患者の家族が安心して家族をあずけられる温かい雰囲気をつくっている。
済陽氏は次のように語る。「長い間、三愛病院で診ていた患者さんが認知症を発症してしまおうと、その患者さんには介護施設に移され、患者さんと病棟とのつながりが切れてしまっています。そのため、必要ない治療を受けられないまま亡くなってしまおうという状況がなくなりました。これを解消し、最後まで患者さんの治療に当てる。これがその医療です。」
そして同氏の理念を具現化する上で、急性期病院である三愛病院と介護老人保健施設「トワーム指扇」「トワーム熊谷」「トワームみずほ台」そして「トワーム小江戸病院」とタイアップの違う病院施設がそろっていること、そしてその医療連携が密であることが非常に大きな強みとなっている。



看護師をはじめとするスタッフがキャンドルサービス

花火(スターマイン)560発を打ち上げ、患者をはじめ、その家族に夏の風情を楽しんでもらった。
また、昨年12月24日には患者の早期回復を願う「キャンドルサービス」を実施。看護士や職員がキャンドルを手に誓いの言葉を述べて祈りを捧げ、入院患者へクリスマスプレゼントを配った。
介護医療が儲けにつながる、職員が負担が大きいのを言われる中で、医療の原点を共有し、新たな仕組みで認知症患者を治療する「トワーム小江戸病院」は4年目に入り、進化していく。第二ステージへと進み、

「すべての認知症が不治の病ではない」という基本理念で 先端機器を完備しニーズを取り入れ 認知症患者の退院を実現する 認知症専門病院「トワーム小江戸病院」

「患者さんのニーズに合わせた病院を」と話すのは医療法人社団・松弘会理事長の済陽輝久氏。小江戸・川越(埼玉県)で認知症専門病院「トワーム小江戸病院」を開院して3年が経つ。「認知症患者を介護するだけでなく、治療して改善する」ことで、700名を超える患者を退院させた同病院のさらなる進展とは?



わたよう・てるひさ

医療法人社団松弘会の沿革

1975年	東邦大学医学部卒業。78年まで同大学整形外科で勤務。日赤医療センター麻酔科、磯子中央病院勤務を経て、85年に三愛病院設立。院長に就任。総合診療科、整形外科を担当。97年医療法人社団松弘会理事長に就任。日本麻酔科学会麻酔科認定医、ガンマナイフ認定医、身体障害者認定医など。	1985年	4月	理事長 済陽輝久が三愛病院を設立
1986年	10月	救急指定病院となる		
1992年	3月	MRI導入		
1997年	4月	医療法人社団松弘会 三愛病院となる		
2003年	12月	MRI機種変更(1.5テスラ:高傾斜磁場/シーメンス製シンフォニー/全国4台)		
2004年	9月	ガンマナイフセンターオープン		
2006年	4月	介護老人保健施設「トワーム熊谷」開設(100床)		
2006年	7月	介護老人保健施設「トワーム指扇」開設(100床)		
	同	介護付有料老人ホーム「トワームみずほ台」開設(48室)		
2008年	6月	認知症専門病院「トワーム小江戸病院」開設(200床)		
2010年	8月	三愛病院にMRI1.5タイプ(GE製)を導入		
2010年	12月	トワーム小江戸病院に日本最新バージョンの3.0テスラMRI(GE製)を導入		
2010年	12月	アーカンソーハートホスピタルと提携		

「医療の基本は、治す」ということ。そのためには、最先端の診断設備が必要なのは、原点をこう語る。済陽氏は医療の「三愛病院(126床)」を、埼玉県さいたま市桜区で営んでいる松弘会が立ち上げた「トワーム小江戸病院」(2008年6月10日開院)は、2008年6月10日に開院し、外来・医療重傷を認知的なケアなどの医療を行う。通常、認知症患者はグループホームなどの介護施設で対応することが多い。一方で、身体疾患を併発した医療必要度の高い認知症患者は、介護施設では対応が難しい。また、精神科病院は、身体疾患の診療体制が総合病院に比べて整っていないところもある。

しかし、トワーム小江戸病院では「24時間、365日、患者さんの診療体制を整備して一気通貫の診療体制を整備して、機器が設置され、合併症の迅速かつ適切な検査・治療の実施が可能なのである。」
日本初の最新システム(オプティマイズド)を搭載したMRIやマルチスライスCT、さらにはSAS(睡眠時無呼吸症候群解析器)・睡眠初診)といった一般の認知症病院では見かけない機器を完備。ドッグセラピーや音楽療法など、認知症に対する治療法も多岐にわたる。医療

スタッフは医師18名、看護師10名、臨床心理士3名、他、検査、医療事務員も合わせて約220人体制と、通常の認知症病院では見られない理学療法士がトワーム小江戸病院では治療・退院を前提として、いるため3名在籍しており、リハビリ室にも歩行訓練のための機器がそろっている。現在、松弘会では日本医療機能評価機構認定・救急病院の三愛病院と、さいたま市に「トワーム小江戸病院」を核として、超高齢化社会に対応すべく、介護老人保健施設「トワーム熊谷」「トワーム指扇」「トワームみずほ台」を展開。



患者の尊厳を重視し、愛情込めた医療の提供を目指す「トワーム小江戸病院」